

令和4年度秋田県総合政策審議会  
第3回 観光・交流部会  
(議事要旨)

1 日時 令和4年8月23日(火) 15:00~17:00

2 場所 総合庁舎607・608会議室

3 出席者(敬称略)

【観光・交流部会委員】

丑田 俊輔・・・ハバタク株式会社代表取締役(オンライン参加)

齋藤 あゆみ・・・旅のわツアー代表

佐々木 亜希子・・・能代市市民活動支援センター長(部会長代理)

吉澤 清良・・・公益財団法人日本交通公社観光文化振興部長(部会長)

【県】

観光文化スポーツ部 次長 岡部 研一

次長 菅生 淑子

インバウンド推進統括監 益子 和秀

食品産業振興統括監 柴田 靖

観光・交流戦略関係課長 ほか

4 部会長あいさつ

本日は、事務局が取りまとめた提言書(案)に基づき、成案に向けて議論をお願いしたい。最終的な提案書は、9月に開催される第2回秋田県総合政策審議会において、私から発表することになるので御協力をお願いします。

直近の話題として、秋田ではないが、甲子園で仙台育英高校が優勝した。スポーツ観戦は大変気持ちが良いことであり、本日の議論の中にもスポーツがあるので、新たな感覚で議論ができると期待している。

5 議事(1)「新秋田元気創造プラン」戦略3の推進に係る施策の提言について

●吉澤部会長

はじめに、県の方から御説明をいただき、委員の皆様においては、漏れている点や強調したい点などを含め、御意見をいただきたい。

□佐々木観光戦略課長

(提言書(案)について、他の専門部会への提案について、資料1・資料3により説明)

●吉澤部会長

全体として、五つの提言の構成となっている。一つの提言にかかる検討時間を概ね 20 分くらいに区切って議論していきたい。

具体的な議論に入る前、8月5日の企画部会の内容を報告させていただく。企画部会は、各部会の部会長が出席して行われた。議論の内容は、資料3とも関連があるが、出された意見について部会間で調整を行うということである。

具体的には、教育・人づくり部会から産業・雇用部会に、職業教育について、両部会に非常に密接に絡む施策であって、効果的なキャリア教育を推進するため、学校と企業との仲介役となるコーディネーターの育成・確保に関する支援が必要であるといった内容であった。

私からは、関連として、観光人材の育成は、大学などでの教養、現場での実践が必要であり、可能であればインターンシップの活用なども含め、セットで橋渡しをするような機関、または支援が求められていることを発言した。

その他、各部会長から自由に意見を求められたので、これまでの2回の観光・交流部会での議論の状況を話したほか、竿燈を観られる機会もあり、多くの人出の中、特に子供たちが楽しそうにしている姿を見て、やはり観光は本能的な欲求のようなものであるということも発言した。

もう一つ、今日の資料の中にも、新たな旅行ニーズという言葉があるが、一般的に、地方回帰志向や自然回帰志向というように言われている中、何もしなければ、一過性のブームで終わる可能性がある。秋田県として必要であれば、ブームとして終わらないような施策を講じるべきではないかという趣旨の話をした。

それからターゲットについて、ウィズ・アフターコロナという時期にあっては、マイクロツーリズムと言われているが、県内・隣接県での近場での観光が注目されている。コロナが収束した後においても県内・隣接県の観光需要というものをきちんと見据えていくことと、今後復活が見込まれるインバウンドの受入れも重要であること、更にマーケティング的な戦略が必要であること、最後に、農業を観光に活用するグリーンツーリズムは、農業が魅力的なコンテンツになるので、各部会とも連携をしながら、様々な施策を考えていきたいという話をした。以上が、企画部会での報告である。

それでは、提言書(案)に関する協議に入る。五つの大きな提言があるので、始めに提言1の「観光産業の生産性向上に向けた取組の推進について」では、具体的に5点の提言項目が記載されている。付加価値の高いサービスの提供、戦略的なマーケティングとプロモーション、体験型・滞在型コンテンツの開発と磨き上げ、インバウンドへの対応、クルーズ船の活用などの各提言項目について、漏れがないか、より強調しておきたい、優先的に取り組むべき事項であることなども含めて、委員の皆様から御意見をいただきたい。

#### ●佐々木委員

提言項目に「クルーズ船を活用した周遊観光の促進」とあるが、今後もクルーズ船は本県に来港するのか。クルーズ船の利用拡大が難しいのであれば、クルーズ船以外の輸送サービスの活用も調べる必要があるのではないかと。

□伊藤参事(兼)港湾空港課長

クルーズ船には、内航と外航の二つがあり、内航クルーズは寄港が再開しており、今年は、既に能代港、秋田港に5回来港している。先日の竿燈においても、ぱしふいっくびいなす、にっぽん丸、飛鳥Ⅱがそれぞれに寄港し、9月にも1回寄港する予定であり、今年は計6回の見込みである。

一方、外国が対象の外航は厳しい。国がガイドラインなどを準備しており、来年度以降は寄港が期待される。

#### ●佐々木委員

クルーズ船のことはよく分かった。

次に、提言項目の2の旅行ニーズに対応するための戦略的なマーケティングと本県の魅力を組み合わせたプロモーションの展開の関連で、県内で観光としてまだクローズアップされていない、または見落としているようなコンテンツの原石のようなものの調査や、掘り起こす取組を行った方がいいのではないか。

例えば、テレビ番組などで何度も放送しているが、山梨県の北部の小菅村は、村にある空き家を活用した旅館があり、そこで村の人たちも働いている。村の立地が東京から2時間という利点もある。人口減少に伴い空き家が多くなり、何とか知恵を絞って空き家を活用する取組を始め、注目され始めている。

徳島県の上勝町では、ゴミゼロに取り組んでおり、環境に優しいSDGs特化型のホテルをつくったところ、たくさんの方が訪れるようになった。秋田県でも、素材はたくさんあると思うので、もっと調査や掘り起こす取組などを提言書に加えた方がいい。

#### ●吉澤部会長

クルーズ船というと、西日本では九州に渡るとかイメージしやすいが、東日本は少しイメージが難しいかもしれない。

#### ●齋藤委員

クルーズについては、船の種類・コースによって乗客が異なり、ターゲット層は変わるので、そのターゲット層に合ったコンテンツを提供していくことと、リサーチすることが大事である。

次にインバウンドについて話をしたい。最近、湯沢市内においても、県で取り組んでいる台湾のチャーター便の話聞くことが多く、いろいろ思考しているところである。

台湾の観光事業者とも話をさせていただいたところ、旅行客の行程は4泊5日だと伺った。市町村がいろいろとPRをしていると思うが、市町村単独では4泊5日の行程をつくることは難しいので、各市町村が連携して取組むことが重要であり、魅力を伝える上でも、地域単位で、まとめて伝えられるような形にする必要がある。4泊5日の行程は長く、個別の市町村よりも、東北や秋田など、より広域な地域に行きたいというニーズがあるので、観光情報などをまとめて発信できるコーディネート機能は重要である。

また、市町村合併後、地域が大きくなって、意見がまとまりにくい面もある。各地域のことをよく理解している事業者などが中心となって、インバウンド対策に取り組むことが必要で

ある。

●吉澤部会長

台湾からのツアーは、4泊5日をどう楽しめるか、観光コースとして示すことが大切であり、民間の力を最大限引き出す役割は重要である。

先ほど、佐々木委員から、魅力の掘り起こしの意見について、小菅村の分散型ホテルは随分前から取組としてはあったのだが、コロナ禍を通じて注目を集めた形態の一つである。私も宿泊をし、取材もしたが意外と若い人が泊まっており驚いた。今後も定着していくかどうかは、これからである。

全国的にも、成功事例はたくさんあるわけではないので、少し先行している事例に学びながら、秋田として取り組んでいくことが方策の一つであるし、いろいろなものを発見・発掘していくことは、提言3の滞在型体験型コンテンツの開発・磨き上げにも関係してくる。

また、体験型観光には教育も関わってくる。教育旅行は、昨今のSDGsという観点から、秋田としてどういうプログラムが組めるか知恵の出どころである。

●丑田委員

DMP構築の記載のところで、どんなことを目指して、どのように進めていくのか、キーワードを入れるなどして分かりやすく記載した方がいいのではと感じた。

●吉澤部会長

デジタルの記載については、最終的なまとめに向けて検討する。

マーケティングの関連で、資料3の他の専門部会への提案の中で、アンテナショップの活用という意見があった。アンテナショップは、東京都内にたくさんあり、多くは物販と飲食の提供がメインとなっている。本来は、アンテナなので、マーケティングも目的である。テストマーケティング機能として、アンテナショップを活用することが必要であるので、提案書の戦略的なマーケティングとプロモーションの中で、取り入れることができるのではないかな。

次に、提言の二つ目、「県産食品の市場での優位性の確保と収益性の向上について」、提言項目として二つ挙げており、それぞれ御意見を伺いたい。

●佐々木委員

秋田県の地産地消率は把握できるか。

□柴田食品産業振興統括監

例えば、秋田中央卸売市場において、県内産の野菜は大体20%から23%程度である。これは青果の率であって、お米であれば、ほぼ100%に近いが、加工品となるとかなり低くなる。

地産地消率を都道府県単位で出している県はほとんど無い。特に、加工品は、一旦、県外に出てからまた県内に入ってくるなど、様々な流通ルートがあるので把握することは難しい。

### ●佐々木委員

県内で生産した農産物を、県内で100%消費できることを売りにして、例えば、本県で農業を営む際にも、全てを県内で消費することができて生業として成り立ち、生活することができるのであれば、一つの売りになる。

このように数字を分かりやすく公表し、キャッチコピーのようにPRすれば、チャレンジしようとする若い方の支援になると考えた。

### ●吉澤部会長

佐々木委員の提案のとおり、何かを作るときに、素材自体がその地域の中でほぼ賄えて、消費もできることをPRすることは、いいことである。観光面において、地産地消は大切なキーワードである。

物産でも、観光でも地産地消を進めていくことは、農業県である秋田の最大の強みであり、企画部会ではそのような意見もあった。

### ●齋藤委員

例えば、健康食品は利益率も高く魅力的ではあるが、品質や安定供給が課題となっており、地産地消ができれば、安全でかつ安定した出荷が期待できる。

また、給食に、100%地元のものを使っていくことも大事であり、給食を全て地産地消にしたという事例を聞いたことがあった。地産地消を行うことによって、農業収入の安定が図られ、高付加価値の新たな取組にもチャレンジできるのではないかと。

その他、提言1の観光と提言2の食の分野での連携について、湯沢市の事業者から、日本酒の輸出をはじめたところ、結構売れているという話を聞いた。外国からチャーター便で来たときに、日本酒について知ってもらい、帰国後にアンテナショップのようなどころで継続的に購入できるよう観光ツアーと連携することによって、相乗効果が生まれる。

### ●吉澤部会長

観光と食の連携は、本当に大事である。前にも発言したが、観光先で購入したお土産を自宅に持ち帰ってきた時に、観光地の記憶を思い出すことで再購入につながる、または購入したところにまた行きたいと思う。このような好循環が出てくることは重要であり、こういう循環が生じるよう戦略的に仕掛けていく必要がある。ぜひ取り組んでほしい。

### ●丑田委員

日本においてもSDGsの視点を踏まえた循環型経済という取組は進んできている。先ほどの地産地消の話や再生可能エネルギーの利用が高いなど、いろいろPRできる素材が、秋田県には蓄積されている。

これらの考え方を観光や食品製造の現場にブランディングしていくため、秋田型のSDGs食品の基準を作るなど、基準や事例を発信してもいいのではないかと。

### ●吉澤部会長

SDGsについては、人によって理解が分かれる言葉だと思う。

観光の分野では、サステナブルツーリズムという言葉がよく出てくる。このサステナブルツーリズムという言葉自体も1990年くらいからあるが、このコロナ禍を経て改めて注目された。

しかしながら、いろいろな立場の人が様々な場面で使うので、事業者の側、あるいは地域の側にとっては、何をすればいいか分からなくなっている。

SDGsもサステナブルツールも非常にいいことであるので、誰も否定せず、総論は賛成であるが、各論になったときに、何をしたらいいのか誰も示してくれないというところが実は非常に悩ましいことである。

先ほど丑田委員が言っていたSDGsの基準について、秋田の食はこれだということをは分かりやすく、事業者に示すことが良いかと思う。

また、一つ目の観光分野での提言になるのかもしれないが、例えば、丑田委員から発言のあった再生可能エネルギーも、カーボンオフセットツアーなどの観点から、秋田にとっては強みになり得る。

私は、「強み」について何度も申し上げているが、やはり他県と比較して優位なところは何かをよりブレークダウンさせ、分かりやすく発信することが大切である。

次に、提言の三つ目、「ミルハスを核とした文化芸術・伝統芸能活動の活性化について」、提言項目は二つあるが、それぞれについて、委員の皆様から御意見を伺いたい。

#### ●佐々木委員

提言の内容に異論はないが、提言項目として、強調して欲しいという趣旨で、例えば、県内の芸術家は様々なジャンルがあるので、総合的な文化・芸術の人材育成にかかるサポート強化のような文言を入れられないか。

#### □安田文化振興課長

文化芸術の幅は、委員の言うとおりの幅が広い。アーティストと言うと、例えば、美術アーティストや、パフォーマンスなどの様々な分野がある。若手アーティストの育成支援では、企画展の開催支援、一緒にプログラムづくりするなどの取組のほか、ミルハスの作品展示コーナーを活用しながら、若手アーティストが発表できる場の確保などの取組を継続したいと考えている。

また、民謡については、平成30年度から発表の場を通じた人材育成を実施しており、若者の育成という視点を十分持ちながら、今後とも事業を実施してまいりたい。

#### ●佐々木委員

ミルハスのアドバイザーには、蜷川氏から教えを受けた著名な演出家である藤田さんが就任しており、秋田では様々な形で芸術家をサポートしている。また、若者支援の補助金では、文化・芸術に関する提案も採択されているなど、県では既に幅広い支援を行っているので、強調するという趣旨で、こうした支援を提言書に記載できるのではないか。

### ●吉澤部会長

文化芸術の分野は裾野が広い。生涯教育という範ちゅう、アプローチもあるかもしれないが、県では、これまで文化芸術分野に丁寧な支援をしてきており、このような方々の大きな発表の場がミルハスであるとも言える。

幅の広い支援については、提言の三つ目に加える方法もあるが、むしろ、これまでの取組内容として提言の背景に記載し、その上で、更に進めていくという趣旨で、ミルハスの活用や、伝統芸能関係の体験型プログラムなどの具体的な取組があるという方法もある。

### ●齋藤委員

芸術家の方々の発表の場があるということはいいことだと思う。さらに、そのイベント情報をどのように県民に伝えるかということも非常に重要であって、仮にいい場所で開催するにしても、ただ開催しますだけだと人は集まりにくく、発表する方のモチベーションも下がってしまう。

芸術家の方々が広告にお金をかけることは難しいので、例えば、年1回程度のある分野のアーティストを集めた発表会を開催するなど、県でも、プロモーションをサポートして、多くの県民が観られる機会が増えると、アーティストのモチベーションも上がり、スキルの向上にもつながる。

### ●丑田委員

県外の方に、秋田県の祭りを含めた国指定の民俗文化財が、京都よりも多いという話をすると驚く人は多い。素材や資源としては、素晴らしいものはたくさんある。体験型プログラムづくりは、地域の伝統芸能に関する理解を深めることはもちろんであるが、一方でしっかりとした対価を得ることも大事で、経済的な面との両輪で行うことが重要である。

日本の文化芸術・芸能に関するサービスは、安価なものが多いし、一定の対価があって経済が循環し、それによって持続する分野もある。承継を考えた際にも、生業として継げるような仕組みが大事である。

### ●吉澤部会長

京都の話で思い出したが、北前船の国際フォーラムの話聞いて、北前船が日本海側の地域に文化を運んできたことは大きい。

秋田の言葉の中に、京都の言葉がたくさん入っているような話をすると、最近の人はピンとこないと思うが、言葉が入ってくるくらい古くから京都との接点が強いので、文化芸能も秋田にたくさん入っていると思う。その辺のストーリーも含めて、秋田にはたくさん郷土芸能的なものが残っているのかというところを、きちんと伝えていく必要がある。

もしかすると、京都と同じようなルーツを持つ郷土芸能であって、秋田の方に本質的なものが残っている可能性もある。ともすれば、観光化していくと本質が忘れ去られていき、上辺だけ残り、改変されてしまうことがある。

先ほどの丑田委員の経済効果の話もあったが、どこまで観光に供するか、どうやって郷土芸能を残していくか双方のバランスが大切である。

次に、提言の四つ目、「トップスポーツチームの活用とジュニア層への適切な指導について」に入る。提言項目は、トップスポーツチームを活用した地域貢献活動と、ジュニア層の競技力向上を図ることができる適切な指導体制の構築の2点が記載されている。

#### ●佐々木委員

基本的にはこの内容でいいと思う。少し追加して欲しい箇所は、提言項目の二つ目、ジュニア層の競技力の向上を図ることができるような「環境」及び「適切な指導体制」を構築するにできないか。

ただ、指導体制だけを構築するだけではなく、前回も話をしたと思うが、引退された方のほか、例えば、スポーツ庁が中心となって、大学生などを活用し、小学生の部活動を指導するなどの取組を行っており、こうした取組がさらに広まるよう県がサポートする、支援するという意味で、「環境」を構築するという文言を入れられないだろうか。

県でも、プロスポーツの選手や、監督で指導していた方などを招へいして、講演を行っているが、こうした取組は今後も継続されると思うので、提言の中に盛り込めればと考えた。

#### □米田スポーツ振興課長

スポーツ庁の取組については、今動き出しているところであって、教師の働き方改革の面からも、例えば、週末の中学校部活動の地域移行という形で、地域の人に御協力をいただくことを想定している。今後とも、国の動向等も踏まえながら、情報収集してまいりたい。

#### ●吉澤部会長

提言4の内容から見るといろいろなことを読み取れるので、どうやって取り込めるかということになると思う

ジュニア層への指導体制を確保するため、県全体での雰囲気づくりのような、環境づくりに対して、県民の理解が足りないということであれば、機運の醸成のようなことを記載できるかどうか、検討させていただきたい。

#### ●丑田委員

秋田市以外の過疎地域においては、スポーツする環境が限られている中、今は、スポーツ教室やクラブでもオンラインによるスポーツ指導を行っている。

オンラインスポーツは全国的にも進んでいるので、過疎地域においても広まればいいと思うし、その可能性を探っていきたい。

#### ●吉澤部会長

先ほどの佐々木委員からの意見であるが、資料の2の6ページ目に、先の部会での佐々木委員からの発言が載っている。

トップスポーツチームの地域貢献活動がもっと広まるように支援して欲しいことと、プロが関わることによって、気軽にスポーツをしてみようという機運が生まれてくるという趣旨である。このようなニュアンス、機運の高まりについて読み取れるといいということかと理

解した。

●齋藤委員

みんなで楽しくスポーツをしたいか、競技として関わりたいかによって大きく変わる。

先ほどの丑田委員の発言にもあったオンラインによる活動ということでも良いと思うし、様々な環境をつくってあげることが大事である。

少し部活動から離れるが、勉強したい人はお金を払ってでも塾に行くことと同じで、意識の高い人たちが集まって、団体になってくるとトップスポーツチームが出来てくる。

●吉澤部会長

教育的な観点からも、広くたくさんの人たちがスポーツを楽しめる環境づくりと、トップ選手になれるような環境づくりというバランスが大事である。

次に、提言の五つ目、「県民の社会・経済活動を支える交通インフラの整備と維持について」に入る。

提言項目は、秋田新幹線の新仙岩トンネルの整備及び大館能代空港の利用促進、乗合交通サービスの導入など、新たな交通手段の確保の検討、第三セクターの鉄道の利用促進と持続的な運行に向けた評価・整理の3点が記載されている。

各委員の皆様から、御意見をお願いしたい。

●佐々木委員

この間の大雨の関係で、大館能代空港の近いところの水位が上昇し、危険な状態であった。空港の地域は、もともと地盤が低くて、ハザードマップでも危険であるとされているのか。

●伊勢道路課長

空港そのものについては、高台に作っているのだから、水没するようなことはないと思われている。

一般的に、近年の雨の降り方が極端な傾向になっている。市町村が発表しているハザードマップは、危険度が相当高い降水を想定してシミュレーションを行っているが、全ての地域で実施することは難しく、大きい河川から順番に行き、マップを作成しているのが実情である。

●齋藤委員

第三セクターの鉄道の将来にわたる持続的な運行について、地域の若者の意見を取り入れた対応策とあるが、なぜ地域の若者に絞っているのか理由を教えてください。

実際の利用者層は、東北はシニア層の観光客が多い、また乗り鉄の利用者もいる。若者に絞るよりも、ミドル層やシニア層のようなターゲット層に応じた意見を取り入れた方がいいのではないか。

●佐々木委員

高齢者のニーズはあるが、基本的に若者の意見を聴く機会がなかったと思うので、あれば良いと思って発言したものである。

#### □三浦交通政策課地域交通対策監

シニア層が多いということはそのとおりであり、60歳代くらいの方がメインターゲットになり得るので、これからは、秋の紅葉のトレッキングなどのPRを行っていく予定である。

一方、若者については、学生に利用していただきたいということで、沿線の中学3年生を対象としたアンケートを取るなどのニーズ把握のほか、沿線の学校関係の教育旅行においても、校外学習で利用していただくためのインセンティブとして、内陸線に関係するグッズ提供などの取組も行っており、引き続き鉄道利用が促進されるよう努力してまいりたい。

#### □岡部観光文化スポーツ部次長

内陸線沿線の利用を促進するという目的で設立している地元の団体と、今後の鉄道のあり方を話し合う場がある。また、オフィシャルな場である取締役会などの場もあるが、いずれも若者は対象とはなっていない。提言書の記載にあつては、各団体とも様々な場面で協議をしているので、吉澤部会長と相談させていただきたい。

#### ●吉澤部会長

第三セクター鉄道の運行については、地元需要と観光需要という観点があり、地元需要という観点では、現に利用している高齢者の方、通学利用されている高校生のほか、将来的に使う子供たちなど、多様な意見を聞きながら、持続的な運行方法について考えていくことが必要だと思う。

観光需要について言うと、皆様ご存知のとおり、リゾートしらかみが運行し始めてから五能線が大きく変わったことから分かるように、工夫することが大事である。JRの発信力があつたので、首都圏の方々が乗りたいと思うようになり、五能線から見える風景は変わっていないのに利用者は大きく増加した。

私がこれまで行ってきた取組の棚卸しが必要と申し上げたのは、今の時代に合っているものがあるかもしれないことを、特に観光需要という観点に立って、もう一回整理して欲しい。

それから、観光の楽しみの一つには、快適なドライブがある。

以前、観光部署では、海が綺麗に見える等のタイプ別パンフレットなども用意していた。ここから見る鳥海山が綺麗であるとか、優れた景観を有する観光ルート（シーニックバイウェイ）を改めて訴えていくのもよい。秋田県の誘客ターゲットは、県内及び隣接県、仙台であるので、多くの方々の通行手段は自家用車である。その方々に楽しくドライブしてもらうアプローチが必要である。

また、提言項目の一つ目の秋田新幹線の新仙岩トンネルなどの大規模なハード整備は、膨大な予算が必要であり、一気に整備を進めることは難しいと思うが、県民の安心安全というところにつながるということであれば、やはり整備をしていく必要がある。

提言項目の二つ目の地域と一体となった新たな移動手段の確保については、丑田委員から御意見をいただきたい。

●丑田委員

前回、三種町のふれあいバスの話があったが、北海道の厚真町では、地域交通と買い物支援を組み合わせたサービスを展開し、地域住民の中にも普及し始めている。

今後、三種町の事例も含めて、県内で普及させていくこととなるが、うまく進まない事例が出てくると思うので、何がネックなのかという課題の把握と分析ができれば今後の普及拡大につながる。旅客業の許認可の問題もあるかもしれないが、地域公共交通の確保は重要なテーマであるので、県内で良いモデルが広がるよう県としても取り組んでもらいたい。

●佐々木委員

三種町の事例は行政が主導したというよりも、人口減少に伴いバスの需要が伸びない中、地域住民が危機感を持って取り組んだ結果である。自分達で何とかしなければいけないと立ち上がったところがうまくいくだろうし、行政でも他の地域に情報提供をするなどして、地域全体で取り組んでいこうという雰囲気をつくってほしい。

●齋藤委員

交通については、吉澤部会長の意見のとおり、高速道路が整備されることによって便利になると弊害も出てくる。以前は、目的地まで時間がかかっていたルートが、短縮されて便利になると、例えば、中間地点に温泉地などの観光地がある場合、これまで滞在していた観光客が減少し、衰退するような現象が起こりうる。

観光を楽しむルートをきちんと作って、プロモーションしていくことが大事である。

●吉澤部会長

佐々木委員からの意見の中で支援という言葉があったが、行政の役割はその言葉に尽きる。地域住民の共助による地域公共交通の維持、または二次交通の改善など、何とかしたいという思いはあるが、制度も大きく変わっていく中で、何をすれば良いのか難しいところもある。私も、制度を理解しようと調べるが、地元住民の方、または高齢者であれば制度を理解しようと思ってもなかなか難しい。

そうであれば、新しい手法について情報収集力の高い行政が、住民の方に情報提供していくことが支援であるし、また、何かを始めようとしても、手続のところで申請が伴う場合、公の文書を作成することはとても難しいので、提出書類の作成方法を教えるなどのきめ細かな支援があれば、地域の中でもやってみようという機運が出てくる可能性はある。

情報収集力の高さや文章力は、一番ありがたい支援であることを企業の方々からよく聞く。こうした支援が結果的に地域課題の解決につながり、行政の負担軽減にもつながっていくことでもあるので、提言書とは別に考えていただきたい。

提言書の方は、大方意見が出そろったので、次に、資料3の他の部会からの意見の中のアンテナショップの件であるが御意見をお願いしたい。

●齋藤委員

秋田のアンテナショップは品川にあったと記憶している。以前、有楽町にあるときに入ったことがあるが、入った瞬間の高揚感がなかった。

ターゲットをどのように設定しているのか分からないが、地方関係のイベントを開催すると約7～8割が女性であるので、空間デザインはとても重要な要素である。また、売っている素材をどうやって料理するか分からない方もいるので、レシピ集があったらさらに良いと思うし、レストランがあれば、こういう料理もできるということを少しでも試食のような形で食べることができればいいのではないかな。

北海道に行ったとき、200円で試食できるようなスペースがあって、結果、気に入ったものがあつたら、試食品がパッケージされていて、5倍くらいの値段の商品を購入するような店舗があつた。レストランでの試食、料理の仕方などを体験するスペースもあるなど、入りたいと思う空間づくりは重要である。

#### ●丑田委員

アンテナショップは、各県とも苦戦していると思う。

売上だけではなく、少し広い視点に立ち、例えば、アンテナショップに併設している飲食店で、食や観光に携わる次世代の育成や、秋田の食の新たな表現の実験的な企画、また、秋田に戻ってレストランを開きたい方が、秋田の食材を使ってポップアップ店舗を出してみるような機会の提供があつてもいいのではないかな。

#### ●吉澤部会長

アンテナショップの機能はたくさんある。観光案内・飲食・物販、これらのショーケース的な機能のほか、マーケティングを行う機能もあるので、どこに軸足を置くか決める必要がある。

#### □黒澤食のあきた推進課長

品川に立地した理由は、秋田の食を含めた体験できるスペース確保などの様々な理由から判断したものであつて、一方で、販売アイテム数や食のメニューのほか、立地場所などの条件面も含めて、いろいろな課題があることは承知している。

アンテナショップについては、現在の店舗の賃貸借契約が今年度末となっているが、品川駅周辺の再開発計画が流動的であることなどを踏まえ、当面は今の場所で継続し、周辺環境変化を見ながら、今後のあり方を検討していくと、先日の県議会でも説明したところであつた。委員の皆様からの御意見も参考とさせていただきたい。

#### ●齋藤委員

提言1の提言項目2、観光データマネジメントプラットフォームについて、システム導入には多くの予算がかかるし、また、システムを活用できていないなどの声も聞いたことがあるので、今回、DX関係の専門家が入るので安心している。

以前、東京の大学の学生が湯沢市に来たときに、もし本当にインバウンドを狙っているのであれば、ブッキングドットコムへの登録が必要であるとの話を聞いたが、登録している施

設は少ない。既に集客の流れができて「じゃらん」、「楽天」、「ブッキングドットコム」のようなプラットフォームがあるが、そういうところを活用できていない業者がたくさんあるので、講習などの場を活用して、登録が進むような仕組みがあればいいのではないか。

●吉澤部会長

最後の部会であるので委員の皆様から一言ずつお願いしたい。

●丑田委員

提言書を基に、実際にアクションを起こすことが大事である。私も秋田で暮らしている中で、提言書の実現に協力してまいりたい。また、県内外、外国の様々な事例も、こうした機会を通じて、フィードバックできればと思う。委員の皆様のそれぞれの視点は、自分の学びにつながった。

●齋藤委員

今回、この委員のお話をいただいたとき、何が発言できるか不安があったが、委員の皆様の御意見を聴いて、いろいろな考え方もあると丑田委員と同じくたくさんことを学んだ。

私自身の事業の中で、提言書の実現に向けて、できることは行ってまいりたい。

●佐々木委員

提言をまとめていただき、感謝申し上げます。

観光・交流部会で意見を交わしてきたが、農業や産業、教育いろいろな分野が関わっていることを改めて知った。秋田を活性化させていくためには、どうすればいいか。その1点にあらゆる分野の様々な取組がつながっていることが勉強となった。

●吉澤部会長

今日の皆様のご意見を踏まえて、改めて事務局の方で最終案を作成し、再度皆様にフィードバックする。最終的な取りまとめについては、部会長と事務局の方に一任していただきたい。

成案については、9月28日の総合政策審議会で報告をさせていただく。

□事務局

本日は、長時間にわたり御審議いただき感謝申し上げます。以上をもって、令和4年度第3回観光・交流部会を閉会する。